

【実践報告】

公立中学校教員採用試験などに向けた取組の実際

広島文教大学

教育学部教育学科 教授 小 西 弘 信

教育学部教育学科 准教授 猪 川 優 子

人間科学部人間栄養学科 准教授 山 本 妃奈子

1 令和4年・教員採用試験対策チャレンジセミナーの実際

本学では、学生が主体となって教員採用試験に向けた取組を行っている。各ゼミや受験する自治体別の勉強会の他にも、学生からの依頼を受けて本学教員がチャレンジセミナー（以下、セミナー）を実施している。セミナーの取組は、正規の授業ではなく課外で行われる自由参加型であり、学生の主体的な学びを支援するものである。

各セミナーの開催は、前・後学期および春季・夏季休業期間において、本学の1号館から4号館の教室を使用して行われている。各セミナーの時期以外にも、教員の専門教科・領域内容についての指導や、教職センターの教職アドバイザーによる模擬授業や面接の指導は随時行われている。各セミナーは昨年とは違い、概ね対面によって行われたが、本年も新型コロナウイルス対策のために対面による取組が一部制限されるところもあった。

公立中学校教員採用試験などに向けて、教育学科のセミナー委員・学生および人間栄養学科学生の努力と創意工夫によって取組を開始・継続することができた。以下、本年の取組の概要を報告する。

1.1 後期セミナー・春季セミナー

2020年4月の教育学部教育学科の2年次後期から、中等教育専攻の国語コースおよび英語コースの学生たちは、中学校および高校の国語・英語の教員を目指して、学修を開始した。具体的には、国語教育コース・英語教育コースでは、教員採用試験受験の専門科目の基礎力を養成するために、各コースで勉強会を開催した。（本勉強会については「3 中等教育専攻国語・英語コースおよび人間栄養学科（栄養教諭）での取組」で詳述する。）

そして、中・高国語・英語及び栄養教諭の教採に向けての本格セミナーは、2021年の後期、セミナーを組織し、開始された。この時期にセミナーを開始するのは、中等教育専攻の国語コースおよび英語コースの学生たちが、4年次の前期に教育実習があり、教採の準備ができないこともあり、前倒しで教採の準備をすることが理由である。

（後期セミナー）

本後期セミナーは、中等教育専攻の国語教育コース・英語教育コースの3年生が集まって、学生主体でセミナーを行っていくこと、学生の中からセミナー委員を決め、委員を中心にセミナーの企画・運営を全員で行っていくことを原則とした。教員は、あくまでも学生の支援としての働きをすることになった。セミナーでは、学生が講師役になっての教職教養の勉強会や教採に合格した4年生の合格体験を聞く会を行えた。その後、人間栄養学科の栄養教諭志望学生も、本セミナーに加わるという計画もあったが、スケジュール等が合わないこともあり、栄養教諭志望の学生たちは、所属学科で勉強会を行うことになった。



【写真1：後期セミナー発足会】



【写真2：教職教養勉強会】



【写真3：合格体験を聞く】

（春季セミナー）

1月から広島県のまん延防止等重点措置命令が出ていたため、2月21日のスタート会から3月11日の前期セミナーに向けての会まですべてMicrosoft Teamsを利用したオンラインで行った。春季セミナーで開講した講義は学生にアンケートを取り、教育学科の各教員に相談しながら日程は決められた。本セミナーから中等教育専攻学生は、初等教育専攻の児童教育コース学生と一緒にセミナーを行った。セミナー委員も児童教育コースのセミナー委員と協議の上、セミナーの企画・運営を決定した。

セミナーは、主に教員による講義形式で行われた。講義内容としては、「学習指導要領の解説」や「教職教養教職の解説」、「漢文読解」や「国語指導要領解説」、「英語演習」「外国語指導要領解説」などを各90分で学生は受講した。

1.2 前期セミナー・夏季セミナー

（前期セミナー）

4年次前期には、授業や卒業研究などと並行して前期セミナーが行われる。4年前期の必修授業と同じように時間割の一部としてほぼ毎週行われた。中等教育専攻学生のほとんどは、前期に教育実習が行われるため、実習の前後で、同セミナーに参加した。例年、このセミナーでは継続した取組が必要な内容や1,2回では終わらない内容を主に扱っており、今年度もセミナー委員の学生が事前調査を行って、教員と学生の空きコマに合わせて時間割を組んでいた。

また、各県人会については、各々の学生や県人会が直接教員と交渉して実施していた。その他、学生個人または数人の依頼を受けて、教員や教職アドバイザーによる個別指導が行われるなど、表1の内容以外にも随時様々な支援は行われていた。

【表1：前期セミナーの時間割（セミナー委員調整分）】

コマ	月	火	水	木	金
1		中等国語			
2					
3		中等英語			
4				情報教育	
5					教職教養

（夏季セミナー）

夏季セミナーとして、各自治体で1次試験が終わったところから2次対策を始めた。自治体ごとでグループとなり（広島県初等教育は6グループを編成）グループごとに空きコマを合わせ行った。また、教員の都合の良いコマを調べ、教員と各グループの空きコマが合うところでセミナーは行われた。夏季セミナーの内容は、模擬授業、面接、英語面接である。多くのセミナーは対面形式で行ったが、非

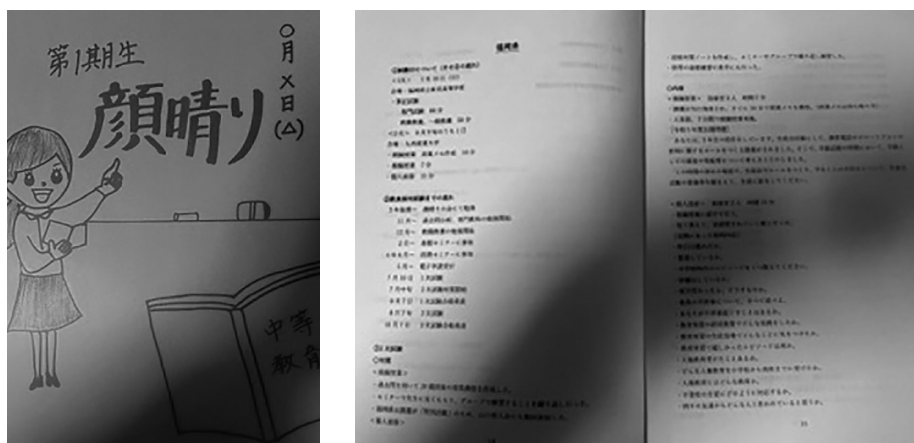
対面でも可能な内容についてはMicrosoft Teamsによって行った。

2 「顔晴り（がんばり）」の取組の実際

今年度の「顔晴り」について以下報告する。

2.1 教員採用試験等報告書「顔晴り」

本学では教員採用試験等の報告書を「顔晴り」と呼んでいる。本年度は中等教育専攻の報告書が全42頁で、主には、各期のセミナー、自治体別の学習会と中学校教員採用試験、一般企業採用試験という内容である。各試験に向けた学習方法、採用試験の実際が詳細に記述されていることに加え、後輩へのアドバイスも添えられている。「顔晴り」については、今年度は紙媒体を教員に配付し、学生へは電子データをユニバーサルパスポートによって配信した。また、下級生が紙媒体で見ることができるよう、教職資料室と各ゼミ室に一部ずつ配布した。「顔晴り」は教員や一般企業の採用試験を受けようと考えている後輩たちにとって貴重な資料であるとともに、学生の学びを支援する教員にとってもたいへん役立つものである。



【写真4・5：教員採用試験等報告書「顔晴り（中等教育）」】

2.2 教員採用試験等報告会「顔晴りの会」

本学では教員採用試験等の報告会を「顔晴りの会」と呼んでおり、本年は11月25日（金）16:30～19:00で行われた。昨年からは新型コロナウイルス対策として、全体会は大講義室で行い、その後の分科会は複数の教室に分かれて実施している。中等教育専攻の分科会は、1号館の書写・図工演習室で行われた。



【写真6：「顔晴りの会」全体会】



【写真7：「顔晴りの会」中等教育分科会】



全体会では、教育学科長と教職センター長の挨拶の後、セミナー委員長の挨拶と副委員長のセミナーについての説明があった。次に、小学校・中学校教員採用試験受験者2人と一般就職2人からの体験報告が行われた。全体会の後の分科会では、広島、島根、山口、愛媛、九州、中等教育専攻の5グループを5会場に分散させ、4年生が作成した受験対策ノートや使用した参考書等を紹介したり、1～3年生が学習の開始時期や方法等について尋ねたりしていた。全体で100名の参加者だった。

3 中等教育専攻国語・英語コースおよび人間栄養学科（栄養教諭）での取組

教採に向けての中等教育専攻国語・英語コースおよび人間栄養学科（栄養教諭）での取組を以下報告する。

3.1 中等教育専攻国語コース

「中等国語顔晴りの会」

中等教育専攻国語教育コースでは、2年次後期から教員採用試験に向けた学生主体の取組が始まる。この取組は「中等国語顔晴りの会」と称した勉強会であり、基本的に週1回のペースで実施されている。活動日や場所、活動内容などの企画・運営はすべて学生が行い、必要に応じて教員が支援するという体制を取っている。2019年に入学した1期生は、センター試験の過去問題を解くことから始め、小テスト方式での古文単語習得、教科書教材の読解などの活動を、グループで役割分担をしながら進めていった。グループワークを積極的に取り入れてディスカッション力を高めたり、コロナ禍では対面での活動が不可能な中でMicrosoft Teamsを取り入れたりするなど、学生の創意工夫が見られた。この活動は先輩後輩間で受け継がれ、現在3期生が2期生からの指南を受けて活動をスタートさせている。



本年度は1期生が教員採用試験に挑む年であった。国語教育コースでは、島根県・福岡県・北九州市・熊本県の中学校受験者が合格に至った。「中等国語顔晴りの会」の活動は、学生時代に行った主体的活動のアピールポイントとしても生かされた。今後の課題としては、国語基礎学力の養成が挙げられる。学生間に実力の差があるため、柔軟な対応が必要であると考えます。

3.2 中等教育専攻英語コース

「英語ゼミ」

中等教育専攻英語コースでは、教員採用試験受験に向けて、2020年後期から英語教員を志望する学生を英語教員が指導するゼミを、週1回行ってきた。ゼミの内容は、国立大学入学2次試験および広島県・島根県等の教員採用試験を通して、文法・読解・作文の力を養成するものである。ゼミ参加は学生の任意にしている。

2020年度後期には、2年生（現4年生）に24回のゼミを開講した。2021年・2022年には、前・後期で2年生・3年生の2学年に同数回のゼミを開講した。参加学生は、教採に向けての意識化や教採の英文読解を解答できるほどの実力を修得していった。毎年のゼミ後の学生アンケートでも、そのことを述べる学生が多い。



本コースでは、広島県や愛媛県からの教採合格者はなかったが、島根県の合格者は輩出できたことから、本ゼミの効果はあったと確信している。しかし、全体的に合格者数が少ないので、学生には、

自分が受験する県の教採の情報をしっかりと把握し、ゼミ外でも、英語の自主学習も怠らないよう指導する必要がある。

3.3 人間栄養学科（栄養教諭）

人間栄養学科では、早い段階から採用試験の現状認識と学力定着の地道な取組を強く促すため、栄養教諭免許取得希望者には1年次から教育実習報告会及びその後の情報交換会への参加を必須としている。情報交換会では、4年生が受験対策のポイントを具体的に説明した後、個別に質疑に応じるなど下級生の支援を行っている。今年度は採用試験直前の6月に、卒業生の栄養教諭の協力を得て4年生との情報交換会を行うなど、工夫を重ねた。



今年度の採用試験を受験した本学科の4年生4名は、3年次の秋に本格的な受験対策をスタートさせており、過去問分析などを進め、3月から模擬試験の受験やセミナーへの参加により対策を強化してきたが、残念ながら広島県・広島市の一次試験合格者はなかった。なお、広島県教育委員会の発表によれば、令和5年度の栄養教諭の採用候補者選考試験の倍率は、一次試験が7.8倍、名簿登載者としては11.0倍であった。

こうしたことから、一次試験突破のための学力の定着を強化するため、3年次から学科内教職担当教員やチューターが学生との面談を重ねて専門科目の習熟度を把握し、それに応じた支援や、4年次に専門科目の強化学習やグループ学習の機会を設けるなどの対策強化が必要であると考えます。

4 令和4年度実施公立中学校等教員採用試験の結果

令和4年度に実施された公立中学校等教員採用試験の結果、各自治体の名簿に登載された者の人数を在学生と卒業生に分けて整理したものが表2である。

【表2：公立中学校等教員採用試験の結果（令和4年11月14日までに連絡を受けたもの）】

	中学校		高等学校		特別支援学校		栄養教諭		計
	在	卒	在	卒	在	卒	在	卒	
広島県・市	0	0	0	0	0	1	0	0	1
島根県	2	1	0	0	0	0	0	0	3
愛媛県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福岡県	1	0	0	0	0	0	0	0	1
福岡県 北九州市	1	0	0	0	0	0	0	0	1
熊本県	2	0	0	0	0	0	0	0	2
大分県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	6	1	0	0	0	1	0	0	8

5 成果と課題

本学の教員採用試験対策チャレンジセミナーは、昨年度まで本学初等教育学科学生によるセミナーだった。2019年の大学改組により、教育学部教育学科が誕生し、初等教育専攻と中等教育専攻がスタートした。そして、中等教育専攻学生は2年次より国語教育コースと英語教育コースを選択し、それぞれのコースで、卒業後、中学校・高校の国語教諭および英語教諭になるべく学修をしてきた。

そして、3年次より、学生は本格的に教員採用試験受験に向けて、教員採用試験対策チャレンジセミナーを組織し、4年次における教員採用試験終了まで頑張ってきた。2年次を含めて2年半の学修の成果は、本報告の「4 令和4年度実施公立中学校等教員採用試験の結果」において数字として表れている。具体的には、広島県・広島市の採用は、残念ながらなかった。しかし、県外の採用は、島根県・福岡県・北九州市・熊本県と、採用を輩出できた。

課題としては、次年度では、広島県内外の採用が輩出できるように向けていくことが必須である。それには、教員が支援する形で、学生主体で、セミナーの運営方法や学修内容をふり返えることによって、どの点をどのように改善すべきかを明らかにし、改善した運営方法や学修内容提示することで、新たな取組を形作っていく必要があると考える。

最後に、今年度も新型コロナウイルス対策のため、セミナーの全てが対面で行えるものではなく、学生も実習に向かうために、大幅に時間をそれに費やさなくてはならないという事態もあり、限られた中でのセミナーとなったが、セミナー委員や個々の学生の工夫と努力により、新規の教員採用試験対策チャレンジセミナーは何とか船出することができたことは評価できることである。

参考・引用文献

- ・三田幸司「公立小・中学校教員採用試験に向けた取組の実際」(『広島文教女子大学 教職センター年報 2021年 第9号』広島文教大学教職センター，令和3年所収)
- ・広島文教大学教育学科第1期生『顔晴り』広島文教大学教職センター，令和4年